

番号	60	大洪水記念碑 佐賀縣知事 沖森源一書		
所在地	伊万里市大川町大川野宿			
災害別	昭和２３年（１９４８）水害			
目的別	記念碑		建立年	昭和２５年９月
特記事項	碑文は高い位置にあることや摩耗が進み判読困難。			



宿区の山笠保存館の脇に建つ昭和23年9月の大洪水記念碑。手前の電柱の影になっており見過ごしやすい。碑文は摩耗して判読困難だが、伊万里市大川中学校発行の「金石文を訪ねて ぼくたちの郷土2」(1961)にその全文が載せられているので引用する。

「昭和二十三年夜の豪雨は十二日午前二時頃急激に増水 遂に圀堤防上三尺に及び決潰五ヶ所及び延百米余水流矢の如く人為の何とも能わず 暗夜の修羅場の悲壮なる救助を求むる声 屋上に逃げ叫び或は流れし流木にすがり或は濁流に吞まれて行方不明 其の悲惨事言語に絶せり 茲にその顛末を記し今後の被災を少なからしめんことを欲し 区民相謀りて小碑を設け後世の戒めとす

一 降水量 四百耗 一 浸水家屋 八十戸 一 流失家屋 七戸
 一 半壊住宅 三戸 一 非住家流失 十七戸
 一 死者 七名 一 牛 壱頭

昭和貳五年九月十二日建立 宿大字中」(原文はカタカナ表記)

碑には当時の洪水の浸水深が刻まれている。手前の電柱には平成2年7月洪水の浸水深として1.6mと表示されているが、昭和23年9月の洪水の水位はそれよりも高い。



国土地理院電子国土 Web